

「2010年3月期決算説明会」主なQ&A

【修繕費をはじめとする今後の固定費の動向について】

Q：2010年3月期の修繕費は、前期に引き続いて減少しましたが、今後の見通しについて教えてください。

A：2010年3月期の修繕費は費用削減に取り組んできたこともあり、前期比73億円減の3,739億円となりました。今後も抜本的な原価低減に取り組んでまいります。安定供給や公衆安全等に必要な工事を実施することや、緊急避難的に繰り延べてきた工事を実施することから、今期の修繕費は600億円ほど増加する見込みです。来期以降についても、今期の水準をベースに、原価低減に取り組みつつ、毎期の費用の平準化を図る方向で対応していきたいと考えています。

Q：2010年3月期は炭素クレジットの償却費用として215億円を計上したとのことですが、今後の償却方針や費用の見通しについて教えてください。

A：CO₂排出原単位の削減に向けた取り組みとしては、柏崎刈羽原子力発電所の復旧をはじめとする原子力発電の利用率向上や、火力発電の熱効率向上を第一に考えており、クレジットはそれを補うものとなります。費用の見通しについては、今後の調達に影響を及ぼす可能性があるため差し控えますが、取得した炭素クレジットは、地球温暖化対策の推進に関する法律に則する形で適宜償却していく予定です。いずれにせよ、「経営ビジョン2010」における「地球環境貢献目標（CO₂排出原単位を2008～12年度の5年間平均で1990年度比で20%削減）」の達成に向けて最大限努力していきます。

【今年度の利益水準について】

Q：今年度は現段階で、当期純利益を単体で0億円と見通していますが、これについてどのようにお考えですか。

A：現在の業績見通しには、柏崎刈羽原子力発電所6・7号機のみを織り込んでいることもあり、当期純利益は単体で0億円と見通しています。同発電所1～5号機は現在復旧の途上ですが、今後も運転再開に向けた取り組みを着実に進めてまいります。また、恒常的な原価低減にも取り組むことで、

最終的には一定水準の利益を出していきたいと考えています。

【柏崎刈羽原子力発電所の状況について】

Q：柏崎刈羽原子力発電所 1・5 号機の状況と運転再開時期の見通しについて教えてください。

A：現時点では、明確な再開時期を申し上げることは出来ませんが、ともに系統単位の機能試験まで終了しております。1 号機は経済産業省原子力安全・保安院、原子力安全委員会それぞれより、プラントの起動について安全上の問題がないことをご確認いただいたことから、新潟県、柏崎市および刈羽村に運転再開のお願いをさせていただいたところです。

【海外原子力の展開について】

Q：海外原子力受注を巡る官民共同の新会社設立の話が出ていますが、東京電力としてどのように関わっていきますか。

A：今後の具体的な運営体制や出資比率等については協議中ですが、電力としてはこれまでの知見・ノウハウを活かして、受注に向けて貢献していきたいと考えています。プロジェクトの収益性はもちろん、リスクに常に配慮しながら進めていきたいと考えています。

以 上